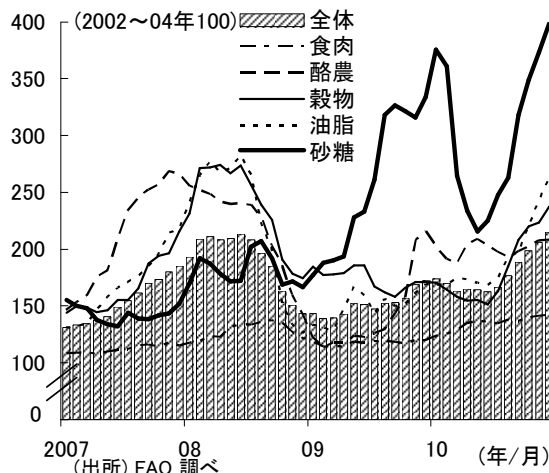


上昇する食糧価格

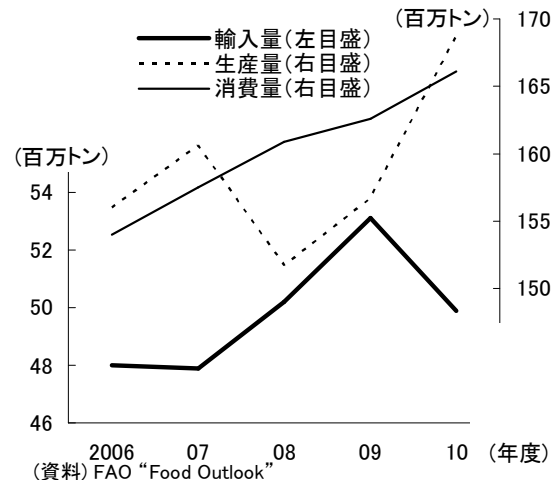
～ 新興国の需要増加と天候不順、ドルの先行き不安が主因 ～

- (1) 食糧価格が再び上昇。F A Oによると、2010年12月の食糧価格は08年6月を凌駕し、既往最高へ（図表1）。品目別にみると、天候の影響を受け難い食肉以外、ほぼすべての分野で上昇。とりわけ砂糖の値上がりが著しく、次いで油脂や穀物が上昇。
- (2) 価格上昇はまず需要増。例えば値上がりが最大の砂糖をみると、生産量は再び大幅に増加しているものの、新興国を中心に消費量の増加が続くなか、インドやブラジルを筆頭に多くの新興国は砂糖生産国でもあり、国内需要のさらなる増加に備えた在庫積み増しなどにより輸出余力が低下（図表2）。当面、状況変化は期待薄。
- (3) 次いで天候不順。典型が穀物。ロシアやオーストラリアの小麦生産をはじめ、昨年来の天候不順や異常気象によって穀物生産が総じて減少（図表3）。消費量の増勢が続いているため、消費量対比でみた在庫水準は05～07年水準まで低下する見通し。
- (4) さらに、米ドル安も作用。近年の推移を振り返ると、一次産品全体でも、食糧でも、ドル安が進行すると価格が上昇し、ドル高になると価格が下落する傾向が看取（図表4）。今後を展望すると、量的緩和政策第2弾や拡張的財政政策によってドル供給の一段の増加が見込まれるなか、ドル安懸念が早急に解消される公算小。
- (5) 以上を踏まえると、食糧価格の上昇傾向は少なくとも当面、持続する懸念大。資源・エネルギー価格の上昇と併せ、コスト・プッシュ・インフレが視野に。

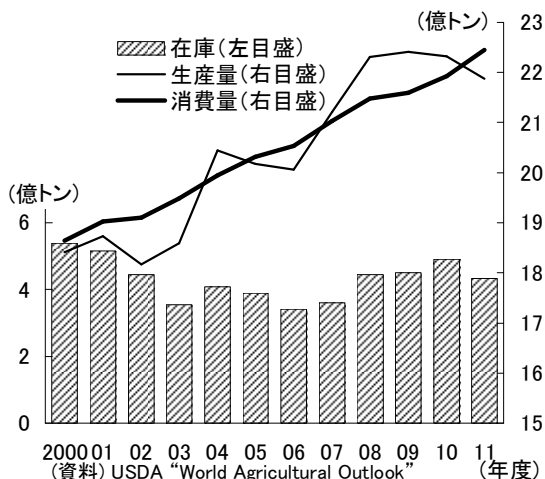
（図表1）食糧価格の推移



（図表2）砂糖の生産・消費・輸入量(世界計)



（図表3）穀物の生産・消費・在庫量(世界計)



（図表4）食糧・一次産品価格とドル実効レート

